

ハシモト 教授の あっぱれ 中小企業



政策研究大学院
大学名誉教授
橋本久義

(株)エムアイ精巧の宮田和久社長は、父の父は二十四歳で独立し、宮田製作所を創業した。創業というところではよいが、「蹴飛ばし」と呼ばれる、脚力でプレスする機械を二台買って、下請仕事を始めたということだ。人を募集したこともあったが、人手不足時代で応募者は少なく、入ってもすぐにやめてしまうので、結局夫婦二人でやっていた。父

母親のため家業のプレスの仕事を継ぐ

もともと医者になりたかったが、学資も偏差値も足りないので薬学部に入学した。時はバブル景気の真っ只中。不動産業界



宮田和久社長

に就職した友人がやけに羽振りがよく、二人で痛飲した時に「世の中やつば金だよな!」と意気投合。若気の至りで、大学を中退し不動産の世界に飛び込んだ。デベロッパは豪快な商売だ。巨大なビルが自分の努力で出現する。面白かった。不動産業は土・日が書き入れ時で平日が休みだ。家にいると父親に手伝いを頼まれる。そこで見ていると、母親がいつも怒鳴られている。母親は教育者の家庭のお嬢さんで、お茶もお花

も師範の免状を持っていた。「息子の私がいうのも変ですが、本当に美人なんです。何がオヤジと結婚したのかわかりません。その母が汚いジーンズに私が中学校の時使った運動靴をはいて、オヤジに怒鳴られているのを見て、かわいそうでかわいそうで……。母親には『プレス屋にだけはなるんじゃないよ』と言われていたのですが、見るに見かねてオヤジの仕事に継ぐことになりました。一九九二年ごろでしょうか」

入ってすぐに経営スタイルを変えた。社名もエムアイ精巧にした。Mは宮田、Iはインターナショナル。国際的な仕事ができるようにという意味だ。また「巧」を売物にしたかったので、精工ではなく、精巧とした。

粘って金型名人の「押しかけ弟子」に

「オヤジは古いタイプの職人で、金型は自分と同じときに一緒に独立した仲間から買っていました。でも精度が悪くて、耐久性もない。納期もデタラメ。

名人芸の金型設計・製作が支える精密プレス加工

(株)エムアイ精巧 宮田和久社長

それで自分で金型から作った方がいいんじゃないかと、中古の工作機械を買って、ちよどバブル崩壊でリストラされた金型職人さんを雇って作りはじめたのですが、みんな個性が強くて、なかなかうまくいかない。悩んでいたときに、金型作りの名人のうわさを聞いた。そこで、教えを請いたいと、電話や手紙で申し込んだ。ところが、返事は決まって、「二十日まで忙しい」「月末まで時間がない」。それでもめげないのは不動産仕込みだ。三十回目になると「しつこいヤツだなあ。一度来なさい」と言われて、弟子入りした。とはいえ自分で弟子だと思っただけで、何をしてくるわけでもない。ドイツ製の珍しい道具・器具類を持って顔を出しているうちに「面白いヤツだ」となって、いろいろ教えてもらえるようになった。

不満足でも、与えられた条件の中でどうやって勝っていくかを教わりました」

宮田社長のポリシーは明解だ。周りを見渡して、誰もやっていない分野を探し、さらにユーザーを小さく小さくセグメントして、そこでトップになる。

「デジタルカメラや携帯のボディを作る金型ができるようになるまで、大手電機メーカーがどんな注文をくれるようになりませんでした。カメラのボディは傷ができないように精密な寸法を出して作るのが難しく、新規参入しても火傷して懲りる者が多い。一時期はこんなに儲かっていたのかというくらいでした」

ところが、リーマンショックですつからかんになった。宮田社長が偉かったのは、リーマンショック後の不況期に「これらの金型」ということで、新しい金型を次々と試したことだ。その時期は、これでもかというくらい金型を割ったというこの時の試行錯誤が後々の開発に大いに役に立った。

ある会社が、ステンレスの二枚合わせの部品を一つにできない

いかといってきた。別のメーカーの担当が「エムアイ精巧ならば」と推薦してくれたらしい。ここでできないと言ったら男がすたる。つい、「できます」と言ってしまった。やってみたらできた。脳みそから血が出るくらい苦労したが……。

頭蓋骨が骨折するほど考えてアイデアを出す

「ある会社の手形をずーっと取りに行かなかったんです。それなら『あそこはどういう会社だろう』と評判になって、それ以降すっかり信用がきました。このあいだも、試作の金型を使ったら八百万円ほどの予算を取っていたら半額でできました。だから『四百万円でもいいです』と言ったら、相手の工場長は『八百万円でいいよ』『いや、もらえません』(本



同社の製品。一見ダイカスト製品に見えるが、鉄板をプレスして量産している

今は日本を代表する腕の良い金型職人として業界で名前を知られるようになってきた。大企業からも共同研究を申し込まれてもいる。「自分を背水の陣に追い込んで、頭蓋骨が骨折するくらい考えなければ良いアイデアは出てきません」という宮田社長は、今日も新しいアイデアを実現し続けている。

●(株)エムアイ精巧

埼玉県草加市松江6-9-12
048-936-2010
http://www.mi-seiko.com/

与えられた条件の中でどうやって勝っていくか

「設備がなくても、金がなくても、技術がなくても、材料が